

資格試験の受験指導について

山形県立新庄神室産業高等学校

杓澤 志龍

第二種電気工事士試験について

1次試験が筆記試験で、内容は、「電気理論」、「配電理論」、「配線設計」、「電気機器」、「配線材料」、「工事用工具」、「施工法」、「検査」、「法令」、「配線図」の11の分野から50問出題されます。約六割の正解率で1次試験合格となります。1次試験合格者だけが2次試験の技能試験を受けられます。技能試験の内容は屋内配線工事の一部を模した配線図に従い、与えられた材料の加工、接続を行う単位作業になります。

筆記試験の受験指導

資格取得指導の中で、もっとも力を入れているのが、第二種電気工事士試験です。これは前身の新庄工業高校時代に昭和50年度前後から始めたのですが、新庄神室産業高校になってからも引き続き指導してきました。以前は、2,3年生に対して、希望者だけの受験で指導してきました。講習は主に放課後でした。それまでは、講習の時間が、部活動の時間と重なることと、1次試験である筆記試験の日程と県高校総体の決勝の日程が毎年、重なることで運動部の生徒の受験が制約されました。また、担当する職員だけ、大きな負担を負うことになっていました。

本校発足2年目の平成16年度の受験からは2学年全員受験という体制で指導してきました。

全員受験となってからは、筆記試験の内容が「電気基礎」や「電力技術」、「電気機器」などの教科の内容と重複するので、教科の副読本として受験テキストを採用することで、通常の専門教科の授業の中で指導ができるようになりましたのでサボリや部活動との競合がなく、充実した指導ができるようになりました。不足と思われるところは、朝学習や放課後の指導でまかないました。

1クラス全員が受験するようになると、授業で指導ができますので、サボリや

教室の壁に受験に関わる内容のポスターなどの掲示を行って受験ムードを盛り上げたり、模擬試験を数多く行い競争心をあおったりしながら、生徒のや

る気を起こすことができます。

技能試験の受験指導

平成18年度から技能試験の出題形式が変更になり、受験案内に先駆けて出題候補問題が公表されるようになりました。候補問題は13問で、実際にはこの中から1問出題されます。受験する側から見れば非常にありがたい変更で、受験対策としての技能試験の練習がやりやすくなり、全国的に合格率も向上しました。

技能講習では、生徒は13問の候補問題をそれぞれ2回以上は完成するように指導していますが、生徒にとっては、理論的には理解できても、完成図のイメージがなかなかできません。本校では技能講習に先駆けて、候補問題の完成作品を全職員で製作し、実習棟の廊下に掲示しました。生徒が技能試験の候補問題作成の練習をするときのイメージを作ったり、完成したときの確認作業にもかなりの役にたちました。

この電気工事士受験の指導を通して思うことは、本校の生徒は他の工業高校の生徒に比べて、インターンシップの職種希望や、就職希望を出す際に、電気工事の仕事をやがらずに希望する生徒が多いと思います。就職事情が年々厳しくなっていますが、生徒の就職試験に向かうときの武器としても、今後もこの指導体制を続けていきたいと思っています。



候補問題を見ながら